

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 神戸市立葺合高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒651-0054 神戸市中央区野崎通1丁目1-1
E-mail nao-itakura@sch.ed.city.kobe.jp
Website http://www.kobe-c.ed.jp/fki-hs_s
幼児児童生徒数 男子 368名 女子 702名 合計 1070名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は世界5か国に9校の姉妹校を持ち、その中で海外の学校とESDの交流事業を活発に行ってきた。現在、これまでの取り組みをさらに発展させるために、まず、「子供」をキーワードとし、「世界の共生」のために「人権」「環境」「経済」の3視点から学習し、活動を通してグローバルリーダーとしての意識を育むことを最大の目標とする。そして、大学進学後もさらに幅広く活躍の場を求める人材の育成を考えている。そのため、本校国際科の1年時で世界を取り巻く諸問題を学習し、海外フィールドワークを行う。2年時では「世界の共生のために、私たちができること」の提言をまとめて姉妹校や海外の学校と協議し、さらに、現地に赴き共同で活動を開始する。3年時ではこれらの取り組みに基づき、「KOBE 4大陸サミット at Fukiai」を開催して実践報告と討議を行い、共同提言を発信する。成果については定量、定性評価を行い、5年間の事業終了後もNPO活動を含め、継続した取り組みができる体制を目指す。

① 1年時の取り組み GS1A

GS1A は地歴公民科、英語科、国語科の3教科が連携して、「人権」「環境」「経済」の面から国際問題を考えるための素地を作る科目である。

3教科が内容を共有することで、互いの強化の強みを生かした学習を進め、互いに補い合って生徒の学びを深めている。

② 2年時の取り組み GS2B

GS2B では課題研究を中心に、国際協働学習、校内外での発表・交流活動に取り組む科目である。1年時のGS1Aで学習した内容に関して、生徒自らが課題を設定し研究を進め、最終的には英語論文にてその解決策と実践法を提示するというものである。物事を多くの角度から見る幅広い視野、柔軟性に富んだ問題解決力、意見の論理的に主張できる能力、主張と協調性のバランスが取れる能力、デジタルツールを多面的に使いこなす能力、英語でのプレゼンテーション能力の育成を年間目標としている。

③ 3年時の取り組み GS3C

7月の本校にて行われる「4大陸高校生サミット」の準備を当授業内外で行う。生徒一人ひとりに討論者、司会者、プレゼン発表者、議長団、運営、記録等のサミット内での役割を与え、それぞれが自分の動きを考えだし他者と協働することでESDテーマにおける共同宣言作成を目指し、世界5か国の高校生との円滑なサミット運営を目標とする。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

スーパーグローバルハイスクールの一環として ESD 活動を実践している。授業内においては、テーマ学習として国際理解、国連システム、環境、エネルギーなどに関して学習をした。さらには教育の可能性について衛生、メディア、家族、水と食物の観点から課題研究を実施し、問題発見から、研究分析、解決策の提案にいたるまでの研究論文を英語で作成している。

今年度7月には上記の課題研究を昇華させた世界高校生サミットを本校にて実施。スコットランド、米国、フィリピン、オーストラリア、台湾の高校生を本校に招待し、子どもへの教育について2日間ディスカッションを重ね、最終的に共同宣言文の作成につなげた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

海外の高校との連携には力を入れており、この春も本校生徒をフィリピンと米国に派遣し、次なる高校生サミットの実践に向けて地球が抱える問題への共同研究を実践している。また、今年度は途上国支援を目的とした協働的な運営を伴う NPO 的組織を立ち上げ、在校生に加えて卒業生も本組織の運営者として継続的に活動ができる体制を構築している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では独自でルーブリックを作成しており、それに応じて、ESD に関連する課題研究を評価しており、項目として、論文内容、英語表現力、ポスター、口頭発表と分けてそれぞれ評価している。生徒個人にはポートフォリオ作成させることで、自己評価からペアでの評価、またそれぞれの意見交換後に自身を俯瞰的に見つめることによる自己再評価を促している。

また外部評価としては、各分野の専門家である先生方や国際機関の研究者、また企業において社会貢献活動に従事しておられる方々に、課題研究の助言をいただくようにしている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

課題研究で導き出した自分たちの仮説、海外の姉妹校で発表・意見交換・現地でのフィールドワークを通して、さらに研究を深めた。7月に開催された高校生サミットでは5つのESDテーマごとに発表と討議を行い、それを宣言文にまとめあげた。

12月には「SGH・SSH交流発表会」では生徒が中心となり当日の企画と運営を担当し、参加各校の生徒たちと協力して学びの多い会とすることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

「医療産業都市神戸」「国際都市神戸」といった視点も取り入れていき、こうした立場から社会貢献をしている神戸の企業、例えば、「イーライリリー」「P&G」「アシックス」等から担当されている方を講師として招き、特別授業・課題研究支援を予定している。またWHOの神戸センターやJICA関西、人と防災センター等の関連機関との持続可能な連携を強固なものにしていきたいと考えている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

本校のESD実践において、他のユネスコスクールとの協働が本年度においてはあまり見られなかったのは残念なところである。
現在、神戸ユネスコ協会が中心となり、神戸市でユネスコスクールとに認定された5校で次年度に向けて新たな協働的取り組みを始めようとしているところである。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

自己研鑽活動として各種「課題研究コンテスト・発表会」に参加（43回）したり、ユニセフ等の社会貢献活動、国際理解講座、小学生に英語を教える取り組み、募金活動（75回）に従事しようとする生徒の増加が顕著に見られる。当初は国際科の生徒のみであったが、今年度あたりから普通科生徒にも興味関心を示すものがあられ、活動の広がりがうかがえる。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校のテーマが「子供」「世界の共生のために」なので、ESDの活動内で国際問題を取り上げた場合、生徒たちは「児童労働」「子供兵士」「基礎教育の普及」「安全な飲み水」などを広く浅く取り上げるケースが多かった。その結果、解決案や提案もNPO活動の紹介や企業のCSRの紹介が中心で、新しい発想を持った改善策にたどり着くことが難しかった。問題点が明らかになれば大学の教員の方に専門的な支援を受けたり、インタビューをするところまで進めることができた生徒がいたが、限られた研究時間の中で、国際貢献活動に参加したり、関連企業に提案ができるレベルまでは深めることが今年度に関してはできなかった。

とはいえ、今までのESDの取り組みを通じて本校教員もその指導法を確立しつつあるところである。また、高校の教員の指導のみではサポートしきれない専門分野に関しては神戸市教育委員会の支援のもと、神戸大学の大学生・大学院生に個別支援を受けることができるよう協議を重ねているところである。教育委員会事務局が行っている「学校インターンシップ」を活用して、今後は神戸大学だけではなく、神戸市と協定を結んでいる大学をはじめ他のユネスコスクール提携大学から広く支援を求めていくことも次年度は計画している。